



札幌市立高校との連携事業 [4ページに関連レポート]

大学の使命と本学の活動状況



北海道医療大学 副学長 黒澤 隆夫

北海道医療大学は、昨年度には創立40年を迎え、その間、薬学部、歯学部、看護福祉学部、心理科学部、リハビリテーション科学部と5学部8学科及び歯学部附属歯科衛生士専門学校が整備されてまいりました。さらに、臨床施設として、北海道医療大学病院に加えて、札幌あいの里キャンパスに「地域包括ケアセンター」を開設し、本学の目標である「新医療人育成の北の拠点」を目指しつつ、保健・医療・福祉の中核として地域社会とのより深い連携体制を築き上げつつあります。

現代の大学の使命は教育・研究、地域連携、国際交流の三点であり、これらの活動状況が大学の社会的評価に大きくつながっております。本学の多くの卒業生は地域医療を支えるリーダーとして地域社会で非常に高い評価を受けており、今後も、医療系総合大学として40年間培った教育・研究の薫陶を受け、それらを修得した医療人としての卒業生を社会に輩出していくことが本学の強みでもあり、使命でもあります。

医療系総合大学として、本学では道内の数百を超える医療施設との間で連携を結び、臨床実習教育の一端を担っていただいております。一方、医療に限らず、地域の人材育成、産業活動の活性化等に関与することは大学としての重要な使命と考えられますが、本学では、その一環として地元当別町と滝川市との間で「包括連携協定」を結び、保健、医

療、福祉などの幅広い分野での共同事業を開始するに至りました。既に2年が経過し、多くの成果が上がってまいりました。そこで、本学では、これらの事業をより広く推進するために「地域連携推進室」を設置し、本格的な活動を開始しており、今後の成果が期待されるところであります。

第三番目の国際交流活動につきましては、本学では、アルバータ大学間との語学研修等古くから多くの海外の大学との提携協定がありましたが、名目的な協定に過ぎなかったケースも多々ありました。しかしながら、この数年は、各学部において新たな大学間連携協定とともに、教員の派遣・交換、留学生の交換、あるいは歯学部にもみられるような海外臨床実習など実質的な活動が活発に行われております。また、昨年度より、本学とサハリン州との間で連携協定が結ばれ、協同シンポジウムの開催や医療技術の講習、あるいは本学教員による講演会などが、本学とサハリンで共に開催され、活発な共同事業が展開されつつあります。本学では昨年度に、専任教員を配置した「国際交流推進室」が設置され、上記海外共同事業の積極的な推進を行っております。

本学では、これらの活動を通じて「新医療人育成の北の拠点」につなげていきたいと考えております。どうか皆様に本学の活動をご理解していただき、さらなるご協力をお願い申し上げます。

CONTENTS

大学の使命と本学の活動状況	1
新任教員紹介	2
定年退職される先生からのメッセージ	
札幌市立高校との連携事業	4
2016年度入試結果速報	5
「福祉・介護のしごと説明会」を開催 地域包括ケアセンター竣工式を挙行	
同窓会活動状況	6
看護福祉学部・山田律子教授が 「第14回 杉田玄白賞」を受賞 歯学部 越野寿教授が、 「ICT利用による教育改善研究発表会 平成27年度 奨励賞」を受賞 SCP決定	8
STUDENT'S ACTIVITIES & EVENTS	9
私の学生時代	10
OG訪問 [臨床福祉学科]	11
TOPICS EDITOR'S NOTE	12

新任教員紹介

新任教員

2015年11月20日付

看護福祉学部 助教(看護学科(母子看護学・小児看護学)) 畑江 郁子

Message

定年退職される先生からのメッセージ



薬学部 教授
唯野 貢司

私は、1976年4月から市立札幌病院に薬剤師として入社し、30年間勤務した後、薬学6年制教育がスタートした2006年4月に新たに開設された実務薬学教育研究講座の教授として赴任し、ちょうど10年間お世話になりました。当時、新米教員として何も分からないのに併せて1年生は6年制課程、在學生(2~4年生)は4年制課程と戸惑いも多い中でのスタートでした。しかし、薬剤学講座から配置換えで来てくれた小林道也助教授(現在:臨床薬剤学教授)が、強力な助っ人となって新設講座が立ち上がりました。2年目からは4年生6名が講座配属となり、夏休み後には研究室・ゼミ室・教員室などが出来上がりました。教員も病院勤務経験者の千葉薫先生、野田久美子先生が着任し、開設4年目には薬局勤務経験者の中山章先生、吉田栄一先生、櫻田渉先生が次々に着任し、教育体制も整備されました。4年制課程最後の2年間は、大学院生が修士課程に3名ずつ入ってきたため、近隣の医療施設との臨床研究など忙しい中にも充実した毎日を送ることができました。

6年制課程の準備では、まず実技試験(OSCE)への対応については、他大学のトライアルへの参加、模擬患者さんの確保、物品の準備、評価者の研修など色々なことがありましたが、大学の全面的なバックアップによる施設・設備の充実と、薬学部教員の全面的な協力による人員の確保などの体制作りを構築することができ、現在に至っています。長期化(計22週間)した実務実習の体制整備については、北海道地区調整機構の下で施設側(病院、薬局)の全面的な協力が得られ、全道各地の実習施設への挨拶回り・訪問については、薬学部教員の全面的な協力によって、大きなトラブルもなく現在まで順調に推移しています。

本当にたくさんの思い出でいっぱいですが、10年間多くの教員の方々と学生の皆さんに支えられて充実した日々を過ごすことができたことに深く感謝いたします。お世話になりました皆様のご健勝と、本学のますますの発展を心からお祈りいたします。ありがとうございました。



看護福祉学部 教授
佐々木 重幸

2001年4月に当大学に赴任し、この3月末で15年となります。前職(北大病院救急集中治療部)とのギャップにやや戸惑いながら、これまで大きな事件・事故もなく無事過ごせましたことは、多くの皆様からのご指導ご支援のおかげと感謝しております。

赴任当初は「臨床中心の生活」から解剖、病理、外科などを担当する「教育中心の生活」への変更ということで、生活は大きく変わりました。やがてそうした生活にも慣れ、この15年間、種々の学務や、多くの授業を担当する中で、学生様の様々な面を見てきたと思います。特に学生部に属していた時は学生や親御さんとの接点も多く、考えさせられることも多々ありました。一方、臨床現場において卒業生の成長をみる機会も多く、40年を越える大学の歴史も実感しております。

「教育中心の生活」ではありましたが、医学系科目を担当する必要もあって臨床も多少続けてまいりました。この15年間、医療を取り巻く環境もずいぶん様変わりしました。高度先進医療の発達、再生医

療の進歩などで恩恵を受ける人がある一方、介護で大変な負担を感じる方々は加速度的に増えています。もともと、介護保険制度創設当初の理念としては、介護を家族の手から解放し、社会が担う制度を作る、というのがあったはずですが、今は、逆に介護の担い手としての家族負担がますます増えているように思えます。特養はなかなか入れませんし、国が推進する「サ高住」においても、介護必要度が重症化すると、ほとんど受け入れは困難です。20年前は冗談だったような「長生きのリスク」というのが現実になってきていると思います。

こうした中、医療系の大学卒業生に対する社会のニーズ・期待はとて大きく、卒業生においては、どうか、社会に求められているという誇りをもって、それぞれの役割や業務を達成して行ってほしいと切に望みます。最後になりましたが、皆様のご活躍と本学のご発展を心から願っております。



心理学部 教授
坂野 雄二

この度、心理学部にて定年退職を迎えることとなりました。着任して以来あっという間に時が経ってしまいました。

1980年に千葉大学教育学部に講師として着任して以来、36年にわたる大学教員としての生活に一区切りの年を迎えることになりました。千葉大学に赴いたのは、「共通一次試験」という新しいシステムが始まって間もなくの時でした。そして、大学院修士課程の立ち上げ作業を行いました。その後、早稲田大学で人間科学部と大学院の新設に加わり、そして、本学で新設の心理学部と大学院の立ち上げに参画しました。考えてみると、いつも新しい何かを作り上げるという作業に関わってきたように思います。そして、ここ北海道医療大学心理学部にて無事定年を迎えることができたことを大変うれしく思っています。

この間、心理学部臨床心理学科、および大学院心理学研究科は、我が国の心理学の世界では一定の評価を受けるようになった

と思います。特に臨床心理学を専攻する大学院として、心理学研究科がその特徴としている科学者実践モデルに基づく臨床心理学教育は、全国の臨床心理学関連大学院の先駆けとなる教育・実践モデルとして評価を受けていると思います。また、最近の実証に基づく臨床心理学の領域では、「北に医療大あり」と言われるようになり、全国各地から本研究科で学びたいとする学生さんが集まるとともに(海外の大学を卒業した学生さんも多くいます)、研究と情報発信の拠点ともなってきました。修士生も北海道から沖縄に至るまで全国に散らばり、海外で活躍する修士生もいます。研究の場で、臨床の場で活躍している卒業生、修士生の姿を見ると、とてもうれしくなります。

研究の発展だけでなく、有能な人材を育てることは大学の重要な使命です。本学で研究・教育に携わることができたことが大学教員としていかに幸せなことかと実感させられます。北海道医療大学に感謝申し上げたいと思います。

定年退職される先生からのメッセージ



心理学部 教授
中野 茂

2000年の夏、本学の非常勤講師をされていた京都大学の鯨岡先生から、『北海道医療大学が新学部を札幌に創るので、応募しませんか』という電話がありました。医療大学は、かつて、恩師、三宅先生が勤めていました。また当時私は、単身で兵庫県立大学に赴任していました。その後、初代学部長になられた高橋先生が、わざわざ、姫路まで訪ねてきてくれたこともあり、2003年より本学にお世話になることになりました。しかし、うかつにも、所属学科が「臨床心理学科」であることは、辞令まで見落としていました。

着任と同時に、高橋学部長から何か役職をと言われ、結局、最も苦手な学生関係の委員を、しかも、今日まで受け持つことになってしまいました。ただ、在任中に休学時の授業料を免除するようになり、これは、学生のためになれたと思っています。さらに、この新設の心理学部の学生が就活の時期になったとき、国試合格の道はなく、学生の間に進路への戸惑いが起きました。そこで、「就職委員会」を

立ち上げ、就職ガイダンスを開催し、さらに、「キャリアプランニング」という講義を立ち上げました。しかし、就活に関しては、全くの素人で、成り行きでよくここまで来られたというのが正直なところです。

一方、科研費を獲得して、乳児研究プロジェクトを院生と立ち上げたことは、最もうれしいことでした。市内の赤ん坊を対象に、0歳児が親の期待に沿った行為をすること、嫉妬心を持つこと、モーショニーズという独特な動きをすることなどを見いだししてきました。こうした成果にもかかわらず、「臨床心理士は臨床心理士が指導しなければならぬ」という理由で、私の手元から院生が消えてしまったのは、最も悲しい出来事でした。

先日、元院生、ゼミ生の皆さんが無事に定年を迎えたことを祝ってくれましたが、彼ら、彼女らが立派な人生を送っている姿を見て、何かしら、学生の人生に貢献できたことをうれしく思いました。やはり、学生あつての教師なのだと思えました。



リハビリテーション科学部 教授
国永 史朗

本学の創立から2年目となる1975年4月に、音別校の教養部・生物学教室(主宰:横沢菱三教授)の助手として赴任しました。爾来(じらい)、41年の星霜を経る間、多数の学生たちや教職員の方々との出会い、貴重な体験をさせていただきました。深く感謝申し上げます。

大学生活での初めの頃は、教室員の理解もあり研究の時間に恵まれていました。遺伝子レベルから糸状菌類の分類と進化に関する研究を行い、DNA解読データは多くの興奮を与えてくれたことを懐かしく思います。また、国内外で共同研究を行い、その経験を共にした研究者と深い信頼関係が生まれ、エウダイモニア的な充実感を抱くことができました。

赴任からちょうど10年目に音別の教養部は当別へ移転となりました。その後、基礎教育部と改名、大学の大綱化のなか改組分属、私は歯学部にも所属となりました。しばらく本学はミニ教養部の期間がありましたが、医療系総合大学の体をなすようになり大学教育開発センターが新設されました。今度はそのセンターにも所属とな

りました。また、3年前に新設されたリハビリテーション科学部にも併任させていただきました。

身を置く部署の変遷のたびに複雑な心情にかられましたが、立ち位置がたとえ異なっても目の前の初年次学生にしっかりと向かい合うことは変わらない。この教育における不易を唯一の心の支えとして講義してきました。私の言葉で、学生たちが少しずつ変化し、成長していく姿をみるにつけ、私自身が大いに励まされたことを思い出します。

大学教育開発センターでの業務は、大学生活を大きく変えることになりました。知的興味のもと自由に研究をさせていただいたその恩返しのため、微力ながら本センターに全血を注ぎました。さらなる教養教育の活性化に向けては忘れもの多々の心境ではありますが、身も心も揺らされる貴重な経験をさせていただきました。

大学は厳しい状況に直面しています。辛い時代が待ち受けていますが、たゆまぬ改善を図りながらその難関に立ち向かい、本学がますます発展していくことを祈念いたします。



歯学部 准教授
鎌口 有秀

以上の諸先生の他、

歯学部 鎌口有秀 准教授が定年退職されます。

ありがとうございました。

With heartfelt thanks.

札幌市立高校7校の生徒が参加し、 「看護職・リハビリ職体験学習」を実施

本学では、社会貢献の一環として、模擬(出張)講義や体験授業、インターンシップといった高大連携事業を実施しています。1月8日、本年最初の体験授業となる「看護職・リハビリ職体験学習」を行い、旭丘、開成中等、清田、啓北商業、新川、平岸、藻岩の札幌市立高校7校から計56名が参加。看護学科、理学療法学科、作業療法学科の授業を実際に体験しました。

看護学科

自分の体で診る、触れる、聴く、測る。 看護師によるフィジカルアセスメントって？

看護学科は男子2名を含む計36名が参加して、本学科2年次の授業で取り入れられる「看護師によるフィジカルアセスメント」の体験授業を行いました。説明の後はさっそくグループに分かれ、4つのブースで実習をスタート。フィジカル人形を使つての聴診や問診、脈拍測定などに実習室は大盛り上がり!「あれ??脈どこ?」「わお!足が反応した!」と初めての体験や意外な体の動きに驚きの声もいっぱい!「実際の仕事に対するイメージがわいて面白かった」「早くこの授業を受けてみたい!」、看護職に興味津々な声がたくさんあがりました。



呼吸音や心音を聞いた後は、その音を感じたとおりに表現!



血管音の始めと終わりを逃さずチェックしよう!



関節の動きを測定。そこから生活にどう影響するかを考えます。



瞳孔の観察は、脳や神経の障害がないかを確認する大切なチェック。

理学療法学科

生活に身近なストレッチからスタート! 運動療法と物理療法で体にアプローチ。

理学療法学科は男子4名、女子3名の計7名が参加し、まずは運動療法の体験授業から。先生からストレッチ方法の説明があった後、2~3人1組に分かれ体の柔らかさを測定し、施術をスタート。「痛い!」「すっごく柔らかい!」と、辛そうな生徒もいれば、余裕たっぷりな生徒とさまざま。施術後の体の柔らかさアップに驚きの声も!体を動かした後は、超音波治療機器と電気刺激装置を使い物理療法の体験へ。「これ、どう?」と、ちょっとドキドキしながら機器を当てて筋肉の反応をチェック。今回は普段の暮らしにも使えるストレッチから授業に入ったので、理学療法をより身近に、楽しみながら体験できました。



筋肉のメカニズムを考えて、ゆっくり無理なく体を伸ばそう。



先生が筋肉を伸ばすコツを伝授!なかなか上手に施術できました。



まずは超音波治療機器の説明から。初めての経験に緊張。



音を使って痛みを和らげる。振動はうまく伝わってる?

作業療法学科

色とりどりの糸を編むミサンガ作りで 手先を動かす楽しさを体験。

作業療法学科は女子13名が参加。患者さんが動きと手順を覚えることで、精神的に楽しむとはどういうことかを、ミサンガ作りを通して体験してもらいました。3~4人ずつテーブルに分かれ、各自好きな色の糸を選んでもらい、いざチャレンジ!すいすい器用に編む生徒もいれば、友だちと相談し合っ編むグループなど、みんな一生懸命!その後は「楽しさの評価」についての講義へ。①過去・現在・未来に思いが広がる楽しさ②人と関わる楽しさ③達成感による楽しさ④考える楽しさ⑤心や体が肯定的に変化する楽しさといった5つの要素を軸に、これらの楽しさをどう患者さんの未来につなげていけば良いか、という内容の講義が進められました。生徒たちは熱心に耳を傾け、「作業療法士の仕事ってよく知らなかったけど、授業を受けて理解が深まった」「作業を通して周りとのコミュニケーションを取るのが楽しかった」などの声も。今まで知らなかった作業療法士という仕事の魅力を発見できました。



ミサンガを編みあげることで「できる」喜びを体験。



周りとのコミュニケーションを取りながら作業することも、楽しみの一つ。



手順を教わり覚えることも、「生活の質」を向上させるための大事な訓練。



人の未知なる潜在能力の研究をすることも、この仕事の面白さ。

北海道医療大学

一般前期入試を全国で実施。

本年度は1月30日・31日の2日間の日程で、札幌をはじめ、東北から関東、関西、九州までの全国12会場で一般前期入試を実施しました。総志願者は、2,610名でした。

センター前期入試は募集回数が2回。

センター前期Aは3教科型、センター前期Bは2教科型入試です。それぞれの日程に出願できるので、両方に出願した場合は合格のチャンスが2回に増えます。志願者数は、1,812名でした。

編入学2期に15名の志願。

編入学試験を札幌、東京、大阪の3会場で実施しました。全体で15名の志願がありました。

2016年度 編入学試験(2期)結果

※()内は前年度実績

学部・学科名	入試形態	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率
薬学部 ●薬学科	社会人	3(3)	0(3)	—(0)	—(0)	—(—)
	一般		4(3)	4(3)	0(0)	—(—)
歯学部 ●歯学科	2年次	若干名 若干名	7(2)	7(1)	1(1)	7.0(1.0)
	3年次		2(0)	2(—)	0(—)	—(—)
看護福祉学部 ●看護学科	社会人	3(3)	0(0)	—(—)	—(—)	—(—)
	一般		0(1)	—(1)	—(1)	—(1.0)
●臨床福祉学科	社会人	3(3)	0(0)	—(—)	—(—)	—(—)
	一般		0(1)	—(1)	—(1)	—(1.0)
	指定校		0(0)	—(—)	—(—)	—(—)
心理科学部 ●臨床心理学科	社会人	若干名 若干名	0(0)	—(—)	—(—)	—(—)
	一般		0(0)	—(—)	—(—)	—(—)
リハビリテーション科学部 ●理学療法学科	社会人	2(2)	1(0)	1(—)	1(—)	1.0(—)
	一般		1(1)	1(1)	1(0)	1.0(—)
●作業療法学科	社会人	2(2)	0(1)	—(1)	0(0)	—(—)
	一般		0(0)	—(—)	—(—)	—(—)
合計	—	—	15(12)	15(10)	3(3)	5.0(3.3)

※心理科学部言語聴覚療法学科の編入学試験は、学科の改組転換に伴い、2017年度よりリハビリテーション科学部言語聴覚療法学科の編入学試験を実施予定です。

2016年度 一般・センター前期入試結果

※()内は前年度実績

学部・学科名	入試形態	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率	
薬学部 ●薬学科	一般前期入試	1/30	65(65)	224(264)	220(250)	122(142)	3.1(3.2)
		1/31		170(227)	162(210)		
	センター前期入試	A	15(15)	216(246)	216(246)	62(64)	3.5(3.8)
	B	10(10)	77(68)	77(68)	23(28)	3.3(2.4)	
歯学部 ●歯学科	一般前期入試	1/30	25(25)	70(91)	67(85)	68(94)	1.8(1.5)
		1/31		63(66)	56(57)		
	センター前期入試	A	6(5)	153(170)	153(170)	112(154)	1.4(1.1)
	B	4(3)	58(58)	58(58)	44(55)	1.3(1.1)	
看護福祉学部 ●看護学科	一般前期入試	1/30	40(40)	309(342)	304(333)	98(105)	6.5(6.2)
		1/31		336(325)	332(313)		
	センター前期入試	A	8(8)	195(243)	195(243)	44(52)	4.4(4.7)
	B	6(6)	92(85)	92(85)	24(25)	3.8(3.4)	
●臨床福祉学科	一般前期入試	1/30	23(23)	86(122)	83(119)	106(142)	1.7(1.6)
		1/31		95(115)	93(110)		
	センター前期入試	A	6(6)	84(96)	84(96)	75(92)	1.1(1.0)
	B	4(4)	66(64)	66(64)	66(62)	1.0(1.0)	
心理科学部 ●臨床心理学科	一般前期入試	1/30	24(24)	134(142)	130(138)	152(142)	1.7(1.9)
		1/31		138(150)	135(142)		
	センター前期入試	A	8(8)	133(147)	133(147)	89(89)	1.5(1.7)
	B	6(6)	82(65)	82(65)	55(50)	1.5(1.3)	
リハビリテーション科学部 ●理学療法学科	一般前期入試	1/30	30(30)	183(199)	179(197)	71(69)	4.9(5.7)
		1/31		177(201)	172(195)		
	センター前期入試	A	7(7)	147(176)	147(176)	38(38)	3.9(4.6)
	B	6(6)	72(71)	72(71)	20(20)	3.6(3.6)	
●作業療法学科	一般前期入試	1/30	14(14)	177(199)	172(195)	92(96)	3.9(4.2)
		1/31		190(219)	185(212)		
	センター前期入試	A	4(4)	160(191)	160(191)	50(52)	3.2(3.7)
	B	3(3)	79(71)	79(71)	35(31)	2.3(2.9)	
●言語聴覚療法学科	一般前期入試	1/30	14(14)	124(127)	120(125)	102(103)	2.5(2.5)
		1/31		134(140)	132(136)		
	センター前期入試	A	8(8)	123(119)	123(119)	67(67)	1.8(1.8)
	B	6(6)	75(60)	75(60)	40(41)	1.9(1.5)	
合計	一般前期入試	1/30	235(235)	1,307(1,486)	1,275(1,442)	811(895)	3.1(3.1)
		1/31		1,303(1,443)	1,267(1,375)		
	センター前期入試	A	62(61)	1,211(1,388)	1,211(1,388)	537(608)	2.3(2.3)
	B	45(44)	601(542)	601(542)	307(312)	2.0(1.7)	

「福祉・介護のしごと説明会」を開催

2月5日【旭川会場】、2月19日【函館会場】にて、本学主催の「福祉・介護のしごと説明会」を開催しました。このイベントは、本学が北海道の「介護のしごと魅力アップ推進事業」の一環として、高校生、保護者及び高校教諭向けに行っている事業です。

説明会では、北海道保健福祉部の方による講演や本学教員からの説明、卒業生(現場職員)の特別講演などを通して、介護という職業に対して抱かれているイメージとは違う、介護職の魅力・実情についてを高校生や高校教諭のみならず、保護者の方にも感じていただけたようでした。終了後も、高校生のみなさんが積極的に現場職員へ質問している場面も見られ、盛況のうちに終了しました。



地域包括ケアセンター竣工式を挙行

12月11日午前11時より、札幌あいの里キャンパスにて「地域包括ケアセンター」の竣工式を執り行いました。

式典には東郷重興理事長、新川詔夫学長をはじめ、学園役員、副学長、各学部長等学園関係者、及び工事関係者約30名の列席のもと、修祓(しゅうふつ)の儀、玉串拝礼等が厳かに執り行われ、センターの完成を祝いました。

同センターは医療と介護のサービスを包括的かつ継続的に提供する「地域包括ケア体制」の核となる在宅医療・介護を担う人材の教育・養成を目指し、また、高齢者ケア・認知症ケアなどに関する研究、質の高い在宅医療・介護サービスの提供などを行うことを目的としています。同センターでは12月17日に開設記念講演会を開催。翌18日に地域交流サロンがオープンしました。



薬学部

〈創立年:1979年 会員数:約5,200名〉



薬学部
同窓会会長

田中 稔泰

薬学部同窓会は1979年に発足し、全国17の支部(道内7、道外10支部)で活動を行っておりますが、近年は会員数の増加に伴い北海道内においては、支部の細分化の動きが出ているところがあります。また、道外では逆に卒業生が減少していることから、本州支部の統合も含めて考えていかなければならない状況となっております。各支部の活動におきましては、多くの支部では、医療薬学セミナーと同時に支部総会や懇親会を開催し、その地域での薬業や医療に関する情報交換を行っているところがあります。最近では歯学部や他学部の同窓会とも連携したセミナーの開催が行われている支部もあり学部の枠を超えた活動が始められております。同窓会の活動はこのように会員同士の交流を深めながら、それぞれの仕事やモチベーションを高めることを一つの目標としておりますので、全国の同窓生が一様に参画できるような

支部協力の協力を得ながら活性化を図ってまいりたいと考えております。また、大学への寄与に関しては、在学生も同窓会の準会員としておりますので、入学時に行われる定山深温泉での宿泊研修にも同窓会として参加し、卒業生の講演や新入生の交流が深まるようゲーム大会等を開催しているところがあります。また、入学時に一部の学生を対象とした国語力養成講座を一昨年より開設し行っており、今後は別の基礎教育講座の開設も検討しているところがあります。また、卒業生の医療薬学セミナーへの参加や相談会なども開催予定であり、我々同窓会としても、入学時から学生に対しての支援活動を通して、大学に寄与できるよう努力してまいりたいと考えております。

<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/~phalumni/>

歯学部

〈創立年:1984年 会員数:約3,100名〉



歯学部
同窓会会長

菱輪 隆宏

63.8%。この数字は昨年(2015年)の歯科医師国家試験の全国合格率です。受験者3,138名、合格者2,003名。これが歯科学生教育に対する国の信頼度です。なんと低いことでしょうか。私立大学の学生が長い時間と莫大なお金をかけ、歯科医師だけを目指し、専門的な勉強と実習に励み、学内の厳しいハードルを乗り越え、ようやく国家試験にたどり着いた結果がこの数字とは本当に気の毒で情けなく、資格試験の体をなしていないことが腹立たしく思います。しかも今後、この合格者数をさらに引き下げ最終的に1,500名程にする方針だということです。不合格者の増加が次年度の受験者数の増加に繋がり、競争が激しさを増し、さらに合格基準が上がる、まさにサバイバルな相対評価の地獄の国家試験となっています。このように理不尽で全く理解出来ない歯科医師国家試験ですが、この意味するところはこれからさらに訪れる人口減少社会での歯科医師過剰問題の解決と歯科医療費など関連経費の削減が目的で、そのために幾つかの歯学部を廃校に追い込み調整しようとしているのだとされています。では歯学部の価値とはいったい何なのでしょう

う?口腔から全身につながる健康の維持増進に関わる教育、研究、臨床の充実が国民に対する歯学部の使命でありこの価値の創造のため、各々の現場で努力しており、このどの分野も欠けてはいけないと考えておりますが、今この現状をみると学生教育に大きな力を注がなければ学部の未来はないと言わざるをえません。本会設立の目的は会員の親睦と学部の発展に寄与することです。学部が発展するには留年生を極力少なくし、一人でも多くの学生を国家試験に合格させ歯科医師になる夢をかなえてあげることが最も重要となりますので、本会もこの目的、目標達成のため学部と協力し全力で学生教育の応援をする覚悟であります。最後にこの大変な時代に我が大学に来てくれたすべての学生の幸せを切にお祈りし歯学部同窓会からのメッセージとします。

<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/~d-alumni/dousokai-honbu@clock.ocn.ne.jp>
事務局 札幌市北区北6条西6丁目2-11 第3山崎ビル4F
TEL 011-299-9069 FAX 011-299-9609

看護福祉学部/看護学科・札幌医療福祉専門学校/看護学科

〈創立年:1997年 会員数:約2,300名〉



看護学科
同窓会会長

川村 武昭

福慧会(看護学科同窓会)は1997年に発足して、今年度で19年目を迎え、いよいよ20周年まで目前となりました。これもひとえに同窓生の皆さまを始め、大学並びに諸関係団体の皆さまの日頃からのご協力のお陰であることを深く感謝しております。

主な活動内容としては、臨床福祉学科との協働で取り組む看護福祉学部同窓会セミナーと看護福祉学部学会の企画及び運営を主軸に、4学部及び歯科衛生士専門学校とともに協働で開催しております北海道医療大学同窓会コラボ☆講演会があります。また、これらの活動状況や各地で活躍する同窓生の近況報告等を同窓生の皆さんにお伝えする会報誌(Fukuekai)の発行やホームページの運営、そして同窓生同士のつながりを保つものとして会員名簿の管理を行っています。また、同窓会活動について検討するために理事11名で構成される同窓会理事会を定期的に開催しています。

現在、会員数は2,000名を超え、数年前からは他学部の同窓会と協働で活動するようになりました。会員数の増加と活動の広がりとともに考えさせられるのは、同窓会とは何か、誰のために何をめざす活動なのか、そして活動に携

わる私たち自身の存在意義とは何かということです。仕事をしながら、家庭を持ちながら、家族や友人とのつながりを持ちながら、たくさんの「ながら」を両手いっぱい抱えてもなお私たち同窓会理事が時間の合間を縫って集い、真剣に意見を言い合うことに答えがあるように感じられる今日この頃です。

これからも様々な場所で日々奮闘している同窓生がお互いのつながりを感じられる活動を目指していきたいと考えております。そのために各期の幹事と理事11名が同窓生として、そして同じ職業人として安心して語り合えるように同窓会セミナーや各種講演会、クラス会等の機会を設けていきたいと考えております。これからも会報誌やホームページをとおして様々な活動状況をお伝えして参りますので時々目をとっていただくと有り難いです。皆さまからのご意見やご要望をいつでもお待ちしております。

<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/~kango/kango@hoku-iryu-u.ac.jp>

看護福祉学部/臨床福祉学科・札幌医療福祉専門学校/介護福祉学科

〈創立年:2000年 会員数:約2,000名〉



臨床福祉学科
同窓会会長

小畑 友希

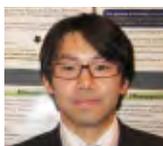
日頃より同窓会活動にご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。現在、当同窓会は会長1名、副会長1名、会計局1名、総務局2名、学術局3名の計8名の役員体制となっています。主な活動は、定期総会、同窓会セミナーIの開催。同窓会セミナーII(看護福祉学部学会共催)の運営協力、新卒者への入会案内、ホームページの管理継続等を行っております。昨年5月に開催した同窓会セミナーIでは、臨床福祉学科(旧医療福祉学科)設立時から6年間教鞭を執られ、再び大学に戻られた佐々木敏明先生に「これからの精神保健福祉を考える―当たり前前の改革を目指して―」と題してご講演いただきました。懐かしい先生の

優しい口調に、キャンパスライフがよみがえった人もいたのではないのでしょうか。2015年度から、新入学生は準会員となり4年後の卒業時には全員が正会員となる仕組みに変わり、これまでの活動を踏まえて新たな取り組みを検討しなければならない転換期に入っていると思われます。母校の発展と、多様化する福祉の現場で切磋琢磨(せっさたくま)している卒業生の応援団として微力を尽くす所存です。皆様の一層のご鞭撻をお願い申し上げます。

fukudo@hoku-iryu-u.ac.jp

心理科学部/臨床心理学科

〈創立年:2006年 会員数:約500名〉



臨床心理学科
同窓会会長

本谷 亮

平素、同窓会活動へのご理解をいただきありがとうございます。今年度も、本同窓会の中心的活動の1つである同窓会セミナーを2回企画しました。第1回(8月実施)は、本学を卒業し、本学大学院も修了して活躍している若手臨床家である中島俊先生を講師にお招きし、臨床や研究におけるスキルアップの具体的方法についてお話いただきました。昨年度に続き、同窓生がセミナー講師となり、後任育成や地域活動に貢献いただけるのは本同窓会としても心強い限りです。また、第2回は、本学リハビリテーション科学部講師でおられる森元良太先生に、「現代進化論と新しい生命観」という大

変興味深いテーマについて講演いただく予定です。一昨年度に役員数を増員し、てこ入れを図ったことで同窓会の諸活動がスムーズになり、会が習熟して参りました。今後も、これまでの活動基盤を大切にしながら、他同窓会とも連携をとらせていただき、さらに充実した活動を進めて参りたいと思っております。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/~p.dousou/shinri-dousokai@hotmail.co.jp>



言語聴覚療法学科
同窓会会長

石黒 恵美子

当会では、STを志す現役の学生・卒業生の皆様に役立つべく、学術や職場に関する情報提供を中心に活動しております。東日本学園後援会・関係者の皆様からのご支援のおかげで、滞りなく運営が行えています。この場を借りまして、深く御礼申し上げます。今年度は2015年6月20日に言語聴覚療法学科同窓会セミナーを開催し、「知的障害者の言語指導」をテーマに、本学の玉重詠子先生にご講演いただきました。全道から多くの方が参加、活発な質疑応答がなされ大盛況のうちに終わることが

できました。現在は、2016年3月12日第9弾コラボ講演会(摂食嚥下分野)、6月25日同窓会セミナー(成人分野)の開催に向けて準備を進めております。今後とも“あいの里ST会”をどうぞよろしく願いいたします。

st-kai@hoku-iryo-u.ac.jp

北海道医療大学同窓会支部連絡先

■薬学部

支部名	支部長(期)	連絡先
札幌支部	多田 正人(4)	☎011-812-2311
道北支部	伊藤 裕康(14)	☎0166-35-5201
十勝支部	中村 章(1)	☎0155-62-0611
道南支部	吉田 元(12)	☎0138-27-7727
釧根支部	徳田 宏司(6)	☎0154-52-5052
ホーツク支部	新井 俊(10)	☎0157-31-3310
日胆支部	山田 達生(2)	☎0142-76-5258
青森支部	三上 章(1)	☎017-729-0330
栃木支部	橋本 秀雄(3)	☎0285-54-5080
茨城支部	西野 郁郎(1)	☎0293-42-0239
北越支部	杉本 雅規(3)	☎0761-43-1151
神奈川支部	川田 哲(3)	☎045-742-2301
東海支部	高尾 信彦(2)	☎053-451-0821
関西支部	新井 淑子(1)	☎078-261-2231
中四国支部	勝原 聡(3)	☎082-291-2104
九州支部	山田 昌人(3)	☎0965-52-5750
沖縄支部	伊波 重宏(5)	☎098-874-1818

■歯学部

支部名	支部長(期)	連絡先
北海道支部連合会	佐藤 明理(4)	医療法人社団明雄会そのま歯科 ☎011-387-8811
青森県支部	佐藤 孝治(2)	佐藤 歯科医院 ☎0172-36-0412
秋田県支部	竹内 享(7)	竹内 歯科医院 ☎0182-22-2001
岩手県支部	渡辺 昌文(7)	わたなべ 歯科 ☎0197-61-2911
宮城県支部	佐々木 隆二(6)	ささき 歯科 ☎022-383-8849
山形県支部	芳賀 俊和(5)	芳賀 歯科医院 ☎0238-84-8107
福島県支部	早坂 弘(4)	早坂 歯科医院 ☎0248-24-6480
茨城県支部	秦 博文(2)	社会医療法人愛宣会ひたち医療センター ☎0294-37-0713
栃木県支部	斎藤 真一(3)	斎藤 歯科クリニック ☎0285-27-1234
群馬県支部	篠崎 広治(1)	しのざき 歯科医院 ☎0276-48-0118
埼玉県支部	伊藤 量蔵(5)	星和 歯科 ☎0489-63-0161
千葉県支部	寺山 功(4)	葉山 歯科医院 ☎0471-64-6480
東京都支部	石野 善男(2)	二子玉川ガーデン矯正歯科 ☎03-5491-5454

支部名	支部長(期)	連絡先
神奈川県支部	宮平 暁(5)	みやひら 歯科 ☎045-590-4601
山梨県支部	白壁 正光(8)	しらかべ 歯科医院 ☎0555-72-4182
石川県支部	久保 伸一郎(2)	粟津 歯科医院 ☎0761-44-4852
新潟県支部	布施 路子(6)	静雅堂 歯科医院 ☎0257-23-8840
長野県支部	小池 文一(2)	小池 歯科医院 ☎026-224-1482
愛知県支部	木村 英雄(1)	こめの 歯科医院 ☎052-451-1182
京都府支部	橋本 昌美(6)	こがはしもと 歯科医院 ☎075-935-8148
大阪府支部	西 一幸(1)	西 歯科医院 ☎06-6793-7500
広島県支部	早志 卓展(6)	たかひろ デンタルクリニック ☎082-422-9600
四国支部	谷本 良司(3)	医療法人谷本 歯科医院 ☎0883-42-2069
九州支部	清川 宗克(3)	清川 歯科・口腔外科クリニック ☎092-822-8805
沖縄県支部	玉城 均(1)	ながた 歯科医院 ☎098-854-1182

■看護福祉学部

☎0133-23-1211

- 看護学科(内線3688)担当:明野(実践基礎看護学講座)
- 臨床福祉学科(内線3708)担当:池森(医療福祉臨床学講座)

■心理科学部

☎011-778-8931(学務部 心理科学課)

- 臨床心理学科
- 言語聴覚療法学科

歯学部附属歯科衛生士専門学校

(創立年:1991年 正会員数:約1,100名、準会員:47名)



歯科衛生士専門学校
同窓会会長

梶 美奈子

1991年9月に産声を上げた本同窓会の現会員数は1,082名です。25年前、既に卒業されていた先輩たちに同窓会発足のお知らせをして入会を募った頃は比べ物にならない大所帯になりました。大所帯になった分、一人一人と密に関わることが難しくなりました。それを補うためというわけではありませんが、3年前から毎年9月の第一日曜日に開催される歯科衛生士セミナー、総会に引き続き同窓会員同士のつながりを深めるために親睦会を開催しております。総会、親睦会共に小規模ではありますがその分、久しぶりにあった同窓生たちと楽しく語らうことの出来る女子会と

いった様相です。今年は、テレビでもおなじみの藤野良孝先生にセミナーの講師依頼を進めておりますので皆様是非ふるってご参加下さい。詳しくは、6月発行予定の同窓会誌「いずみ」をご覧ください。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~katakuri/
okahashi@hoku-iryo-u.ac.jp

歯学部附属歯科衛生士専門学校同窓会支部連絡先

北海道医療大学歯学部附属歯科衛生士専門学校 ☎0133-23-1211(内線3482)担当:大山・岡橋

卒業生を対象とした各セミナー・
公開講座に関するお問い合わせ先

広報・教育事業部
教育研究推進課

☎0133-23-1129(直通) e-mail:nice@hoku-iryo-u.ac.jp

看護福祉学部・山田律子教授が「第14回 杉田玄白賞」を受賞



本学看護福祉学部看護学科 地域保健看護学講座・山田律子教授の「第14回 杉田玄白賞」(主催: 福井県小浜市)受賞の表彰式・記念講演会が、12月12日午後1時から、小浜市の杉田玄白記念公立小浜病院で行われました。

今回の受賞では、全国からの応募の中から、山田教授による「認知症高齢者への食支援に関する実

践・研究活動において、摂食困難を改善するため、多数の実例研究から、患者の心理的要因を明らかにし、その対策やケア方法を考案し、実践ならびに応用をすすめるとともに、研究や実践活動を踏まえ、認知症高齢者がおいしく豊かな食事をしてもらえよう、食器類の配膳方法の工夫などの食事の環境づくりや自作パンフレットを活用した啓発活動の取り組み」が、審査委員会(須藤正克氏<会長・前 福井医科大学学長>、河原和夫氏<東京医科歯科大学教授・副理事>、行天良雄氏<医事評論家・元

NHK解説委員)により高く評価されました。

表彰式に引き続き行われた受賞者による記念講演会では、山田教授による「認知症高齢者の食べる喜びを支えるために ~脳機能を踏まえた環境づくり~」と題する講演が行われました。

●杉田玄白賞とは

「杉田玄白賞」は、福井県小浜市が主催し、「食と医療」、「食と健康増進」、「食育と地域活動」の3つのテーマを対象に、「御食国(みけつくに)おばま」としての歴史と伝統、郷土の偉人・杉田玄白の功績と「医食同源」の理念にふさわしい進歩的な取り組みや研究等から功績顕著な人や団体を表彰しているものです。



歯学部・越野寿教授が、私立大学情報教育協会の「ICT利用による教育改善研究発表会 平成27年度 奨励賞」を受賞



私立大学情報教育協会の「ICT利用による教育改善研究発表会」において、本学歯学部・越野寿教授が発表した研究テーマ「仮想患者を用いた教

育システムの開発と活用」が、「平成27年度 奨励賞」を受賞しました。

この研究は、増加しつつある有病高齢者に対して安全に歯科治療ができるよう、3大学連携(昭和大学・岩手医科大学・北海道医療大学)で歯科医師会の協力により基礎知識習得と臨床推論能力養成のためのICT教材を開発・導入した取り組みです。eラーニング教材による課題学修やテスト、仮想患者教育システムによるチャット形式の医療面接等を通じて、学生すべてに症例を経験させ理解度向上に貢献したことが高く評価され、今回の受賞となりました。



〈学生キャンパス副学長制度〉

Student Campus President 2名決定いたしました。

薬学部 谷口 栄

(たにぐち さかえ)



楽しい学生生活を 送れるように

私が昨年1年間SCPの活動を行ってきて学内外のたくさんの方と関わることができ、学ぶことも多く楽しく活動することができました。

2期目となる今期では特に新生歓迎会やクリスマスコンサート、薬物乱用防止キャンペーンなどの行事を学生のみなさんに参加してもらったり、新しい企画を考えたりして積極的に盛り上げ、これらの機会を通してより多くの人にSCPについて知っていただければと思っています。

8期のメンバーと共に学内外問わずさらに充実した活動を行っていききたいと思いますのでよろしくお願ひ致します。

歯学部 山中 大寛

(やまなか まさひろ)



私がSCPになりましたら、他学部との交流を活発にしたいと思っています。交流の場所として部活動が皆さんの一番身近であると思うため、もっと活発な部活動を行える環境を整えたいです。また大学祭などでも交流が出来ると思います。

また現在行われているイベントの他に、皆さんが興味をもっていただけるようなイベントを企画していきたいです。こういうイベントをしてほしいなどご要望があったときは遠慮なく言ってほしいと思います。出来るだけみなさんのご要望に応えられるような活動をこれから行っていききたいと思います。

最後になりますが、このような活動には今まで特に参加したことがなく、頼りない場面もあるかもしれません。ご指摘、ご指導を皆様からいただけると幸いです。皆様の期待に応えられるよう、全力で取り組みたいと思いますので、何とぞよろしくお願ひします。

学友会

学友会の活動について

「学友会」は学生の課外活動組織で、学友会長(学長)の下、「体育局」「文化局」「大学祭実行委員会」から構成され、学生により運営されています。体育局、文化局では、各局所属のクラブ・同好会から選出された学生が局長・次長・局員となり、クラブ間の調整や取りまとめ、またイベントの企画や実施を行い、大学祭実行委員会では委員長・副委員長、他、会計や広報など機能別の役割担当が置かれ、学生による大学祭の企画・運営が行われています。

学友会組織をまとめ、運営方針の策定や調整をはかるために「学友会運営委員会」が置かれています。この委員会は、体育局長・次長、文化局長・次長、大学祭実行委員長・副委員長、各学部学生部の教員から構成され、学生が議長となり、主にクラブ・同好会の新設・改廃・昇降格や学友会予算の運用・執行について協議しています。また、各クラブの戦績報告や、大学祭の企画の精査および実施報告、学友会施設について等、学生の課外活動に係る事項について総合的に議題に取り上げられています。学友会はSCPと共に学生の代表とも言える組織です。学友会所属団体のみならず、学生生活をより良く過ごすための意見や要望がありましたら、各局長や委員長までお寄せください。

■学友会年間行事予定

4月	新入生オリエンテーションにて、活動紹介(大学祭実行委員会)およびクラブ紹介(体育局・文化局)
5月	学友会運営委員会
6月	九十九祭(大学祭実行委員会)
7月	学友会運営委員会
8月	全日本歯科学学生総合体育大会(体育局所属クラブ参加)
9月	
10月	
11月	文化週間(文化局) 秋季球技大会(大学祭実行委員会)
12月	
1月	
2月	
3月	

体育局

体育局を振り返って

体育局長 土田 将悟(リハビリテーション科学部 作業療法学科3年)



皆さんこんにちは。体育局長の土田です。私が体育局長になって1年が経とうとしています。体育局長に就任した当初は学生支援課からの連絡を各部活、同好会に傳達するだけの簡単な仕事だと思っていました。しかし実際には各部活の予算を決定する予算面談、体育館使用の割り当て決め、定例会の開催など様々な仕事がありました。慣れないうちは仕事の効率も悪く、定例会では緊張のあまり声が裏返り、膝が震えていることを悟られないために敢えて教壇の上を歩き回ったりしていました。

しかし仕事をこなしていくにしたがって効率もよくなり、最近は体育局の仕事にやりがいを感じるようになってきました。今振り返れば体育局長を1年間しかできなかったことに寂しさも感じます。確かにやることは多く大変な仕事ではありますが、その分得るものもたくさんあると思います。これを読んで体育局の仕事に興味をもたれた方は是非気軽に話しかけてください。ここに書ききれなかった体育局のよさについてお話します。

最後にここまで体育局の仕事を支えてくださった学生支援課の沼田さん、副局長の井内君、そして各部活の代表者さんにこの場を借りてお礼を申し上げます。

1年間ありがとうございました。

文化局

文化局を振り返って

文化局長 秋山 隼人(歯学部 歯学科3年)



文化局の仕事は大まかに言うと、毎月行われている定例会の司会進行をすること、予算や決算をするための面談を行うこと、そして11月に行われている文化週間の企画と運営があります。

定例会というのは毎月行われている各団体の活動を円滑にするための会議なのですが、人前で話すのが得意ではない自分としては、緊張でかんでしまい連絡事項がうまく伝わっていなかったり、要点をうまくまとめることができなかったことが多々ありました。

任期の最中は文化局には自分一人しかいなかったということもあり、大変だったという思いばかりでした。任期を終えた今思い返してみると社会に出た際に役立つ貴重な経験をさせていただけだなと思います。

学生支援課や前文化局長、他の局長、各団体の皆さんのおかげで自分はこの任期の1年を、不慣れながらも終えることができたと思います。本当にありがとうございました。

大学祭実行委員会

九十九祭を振り返って

大学祭実行委員会委員長
松原 結(薬学部 薬学科3年)



今回で37回目を迎えた大学祭「九十九祭」は、多くの方々のご協力により、無事終了することができました。まずはこの場をお借りし、九十九祭にご協力いただいた学生や教職員の皆様をはじめ、関係企業ならびに協賛して

いただいた企業の皆様、九十九祭にご来場いただいた皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

私たち大学祭実行委員会は、既存の企画はもちろん、今年度も新企画を取り入れ、ご来場いただくお客様一人ひとりに楽しんでもらえるよう工夫を凝らしながら準備・運営を行ってきました。そして、前夜祭の開催及び花火の打ち上げ、屋外でのステージ発表、雨天時の対応など、実行委員会としての真価が問われるテーマにも取り組んできました。その中で、学内外の団体や企業との交流を通じ、また一つ組織として成長することが

できたと思っています。

一方で、準備の詰めの甘さや新規事項への対応の不十分さを痛感した年でもありました。次の代への引き継ぎを綿密に、そして今回挙げられた反省点を改善していき、よりよい大学祭をつくりあげていきたいと思っています。

現在、大学祭実行委員会では、次回の大学祭に向け準備を進めております。関係者の皆様には、変わらぬご支援・ご協力をお願いしたく思います。これからも私たち大学祭実行委員会と「九十九祭」をよろしく願っています。

クラブ

今年もたくさんのクラブが各大会で大健闘!

学友会体育局/文化局所属の各団体より9~12月の試合結果が報告され、以下の優秀な成績を残しました。

■2015年度下半期クラブ戦績

	団体名	月 日	大会名	参加種目	戦 績
体育局	アメリカンフットボール部	8/23~10/25	平成27年度 全日本大学アメリカンフットボール選手権大会(秋季リーグ戦)	団体(二部リーグ)	優 勝
	弓 道 部	9/27	札幌弓道連盟弓道大会	男子個人	準優勝
				女子個人	準優勝
	ウェイトトレーニング部	11/22	第76回北海道学生パワーリフティング選手権大会	一般の部 女子72kg級	優 勝
				新人の部 女子72kg級	優 勝
				一般の部 男子66kg級	3 位
				新人の部 男子66kg級	準優勝
				新人の部 男子66kg級	3 位
				一般の部 男子74kg級	3 位



ウェイトトレーニング部 第76回北海道学生パワーリフティング選手権大会にて

私の学生時代

歯学部
歯学科

教授 齊藤 正人



1985年、東日本学園大学薬学部に入学生、誰もがカルチャーショックを受けた音別キャンパスで寮生活を始めました。私の実家は寮から車で40分程度の釧路市西端であったため、音別に違和感がない自分は田舎者の代表のようで恥ずかしかったことを覚えています。わずか半年で音別キャンパスが閉鎖となり、当別に越してきてラグビー部に



試合勝利後の喜び風景。
後列右から2番目が私

入部しました。初体験のスポーツで、毎日生傷に耐えながら一生懸命走っていました。

翌年は家族のすすめで歯学部の1年次に再入学しました。歯学部の同級生が何人もラグビー部に入部しましたが、部活では先輩となるため居心地が悪く、そのうち折り合いも悪くなったのでアメリカンフットボール部に移籍しました。こちらでも毎日毎日、犬よりも走りました。アメフトはラグビーと違って防具があるから生傷は少ないと聞いていましたが、何も覆われていない手や足にその硬い防具がすごい勢いで当たってくるのです。たしかに生傷は少なくなりましたが、骨折や脱臼を経験しました。風邪をひいても、あばらが折れても「走れば治る」と言われ続け、そんなことを言っていた先輩のうち2名が、名前は伏せませんが、歯学部の教授にいます。

私の学生時代はバブルの真ただ中で、ディスコや合コンが非常に盛んでした。ディスコに行けば、他大学の女性や大学の先輩・



医療大グラウンドにて合宿打ち上げ時の同期との写真。
後列左端が私

後輩がたくさんいて、それはそれは楽しかったものです。しかし、そんな楽しい時間よりも、泥まみれになって走り回っていた、つらいラグビー部、アメフト部の思い出だけが今もよみがえってきます。きつと理不尽でも一生懸命になったことだけが思い出に残るのでしょうか。

折り合いが悪かったラグビー部の同級生も卒業前には仲良くなり、今でもよく会っています。その頃の先輩もなにかと気にかけてくれています。アメフト部の先輩・後輩・同期たちは頻りに集まっています。皆それなりに役職と貫禄が付いてきましたが、同時に痛風、高血圧、糖尿病など、生活習慣病も付いてきました。お酒が入ると「走れば治る」と言っています。間違っていない。

私の学生時代

今、本学の教壇に立たれている先生たちは、学生時代をどのように過ごしていたのでしょうか。今回は齊藤正人教授と亀井尚教授のお二人に、当時の様子を語っていただきました。

その後の学生時代

リハビリテーション科学部
言語聴覚療法学科
教授 亀井 尚



だいぶ昔の話ですが、「本誌No.65」(1992年1号)に一度登場しました。その時は、小学校から、中・高校(聖光)を経て、大学までの思い出をまとめたのですが、今回は「その後の学生時代」ということで、大学院(上智大学)での思い出をまとめたと思います。

学部学生の頃には、自分で脚本やシナリオを書いて、映画会社に持ち込んだこともありましたが、基本的に「ことば」や「外国語」に興味があったため、大学院では「言語学」を専攻することになりました。その当時、それほど言語学の知識や素養があったというわけではなかったのですが、大学院に入って見て世界が変わりました。講義や演習以外に、自主的な輪講会、抄読会、討論会などが毎日のように開催されていま

した。私も統語論、意味論、日本語学、応用言語学などの部会(セミナー)に属していましたが、毎日のように発表や抄読のノルマがまわってきました。1年経った頃には半数近くの学友が大学院を去っていきました。このような環境の中で悪戦苦闘するうちに、なんとか自分がやりたい理論や研究テーマも見えてきたと思います。

指導教授の先生方もとてもユニークでした。例えば、金田一春彦先生。言わずと知れた日本語学の大御所ですが、行きつけのそば屋が近くにあって、そこの2階を借りてよく議論をしました。穏やかな語り口とは裏腹に、研究に対してはととても辛辣(しんらつ)でした。レコード大賞の審査もされていたので、審査の裏事情もよく伺いました。ハインツ森岡先生。ドイツ人の指導教官で、落語や講談など日本の話芸を音声学的に研究された先生でしたが、新宿や上野周辺の寄席に同行させていただきました。ところが、

大学があった四谷からの移動手段は全て徒歩でした。歩くことが好きな先生で、片道1時間程度は普通でしたが、同行するのは一苦勞でした。最後に、森岡健二先生。「国語辞典」の編纂(へんさん)など日本語の語彙(ごい)・文法研究の第一人者ですが、とてもお酒が強く宴席でのお付き合いが大変でした。ただ、人情味の厚い先生で、私が「新村出賞」を受賞した際は、真っ先に祝福の電話をいただきました。

大学院での経験から言えることは、「苦悩しなければ、研究者への道は開かれない」といったことかもしれません。参考になりましたか。



東京で開催された「音声学世界会議」の部会でのプレゼンテーション場面ですが、修士2年で初めての国際会議ということもあってとても緊張しました。

OG訪問

香り立つコーヒーと、感性が光るラテアート。石狩平野を見渡す眺めのよいカフェが本学臨床福祉学科卒業生・山下さんの仕事場の一つです。もう一つの仕事場はレストラン。クリエイティブで多様な「福祉の仕事」の一面を見せていただきました。

社会福祉法人ゆうゆう 当別事業部就労支援課長
山下 あゆみさん (看護福祉学部臨床福祉学科2006年3月卒業)



ミッション1: カフェオープン

本学中央講義棟10階ビューラウンジにある「渋谷ダブルツールカフェ北海道医療大学店」は、本学と、本学卒業生が設立した「社会福祉法人ゆうゆう」、そして「ダブルツール」、3者のつながりから誕生した、知的障がい者の就労施設です。2014年4月のオープンから2年、この画期的なカフェの責任者を務めてきたのが山下さん。出店が決まり、立ち上げの責任者に就いたのは、オープンのおよそ2カ月前。すぐに渋谷の本店で1週間の修業に入り、カフェの業務、運営を一通り詰め込んできました。そして短期間、激務で準備をととのえ、知的障がいのある3人のスタッフとともに、4月オープン。以来、元気なあいさつと本格コーヒーで、毎日たくさんの学生、教職員を迎えています。

ミッション2: レストランメニュー刷新

カフェが軌道に乗った2015年4月、山下さんは「べこべこのはたけ」の責任者も兼務す

ることになりました。「べこべこのはたけ」は「ゆうゆう」が障がい者の就労支援と地域交流の場づくりをめざし当別町太美で運営するレストラン。農園を併設し地産地消を掲げています。ここで山下さんに課せられたのは東京・銀座の人気店「銀座ライス」の協力の下でのメニュー全面リニューアル。2週間店を閉め、職員と知的障がいのあるスタッフが一丸となって新メニューの調理、配膳の訓練を重ね、再オープンを果たした7月以降、客足を大きく伸ばしました。

とんかつ 福祉の仕事

「レストランに来てくれた中学時代の友人が『とんかつ揚げてレジ打つのも福祉の仕事なんだ』って」と山下さんが笑うように、その仕事内容は一見「福祉の仕事」のイメージとは異なるかもしれませんが、山下さんが立っているのはまぎれもなく福祉の最前線。一緒に働く障がいのあるスタッフは就労支援施設の利用者さんですから、その心身の健康状態の把握、日常的フォローなどはもちろん仕事の基本です。「働くことを楽し



勝手に「季節を感じて同好会(略してキセカン)」と名前をつけて道内をくまなく回った大学時代。「遊んでばかり」の仲間も、全員がしっかり福祉の専門職に就きました。

いと感じ、共に働く仲間がいる職場が自分の居場所と思える、健常者には当たり前にある場をつくりたい」と山下さん。「障がいがあっても失敗や挫折を経験として生かせる選択肢のある社会」づくりをめざす福祉のプロです。

続けるために 外に出よう

山下さんは本学卒業後ずっと「福祉の仕事」、主に知的障がい者の就労支援現場で活躍してきました。でも、福祉から離れようとした時期もあったそうです。「疲れたんですね。他の世界を知らないから、どんどん視野も狭くなって」。そんなとき、本学卒業生で「ゆうゆう」の理事長である大原裕介さんから声がかかり、北海道の若手福祉従事者定着支援事業に携わることに。現場を離れ、福祉従事者が集い、支え合い、育て合うネットワークづくりに4年間奔走しました。「本当に多くの人に会い、世界が一気に広がりました。福祉を外から眺めることもできました。そして、心底現場が好き、戻りたいと思ったんです」。

もう迷いはありません。多様性を認め、誰もが居心地よく暮らせる「ごちゃまぜの地域」づくりへ、山下さんは「片手に自信、片手に謙虚さ」を携え進んでいます。



本学「ダブルツール」のオペレーションをアレンジして働きやすい環境を実現。利用者さんはラテアートに腕を振ります。山下さん不在時は本学の後輩「ゆうゆう」職員・小松麻由莉さん(2013年卒)が担当します(写真奥)。



「べこべこのはたけ」でスタッフのお誕生会の1枚。ここで自信を得て、一般企業への就職に挑戦する利用者さんも出てきたそう。

学術交流先のアルバータ大学薬学部を 薬学部教員が訪問

11月16日カナダのアルバータ大学薬学部に、薬学部の平藤教授、町田准教授の2人が訪れ、それぞれ本薬学部及び薬学研究科の紹介と多価不飽和脂肪酸の生理作用についてのセミナーを行って来ました。これは、大学間学術交流協定を結んでいるアルバータ大学薬学部からの招待によるもので、留学中の大学院薬学研究科第2学年の遠藤朋子さんの激励のためにもとても良い機会となりました。今後ますます、大学院生や学部生、教員との活発な学術交流が行われることが期待されました。



左から町田准教授、薬理学研究室のJohn Seubert教授、平藤教授

ドイツ、ユングシュテリング病院と 歯学部が交流協定を締結

12月10日ドイツのジーゲンにあるユングシュテリング病院に、歯学部の安彦教授、永易教授、齊藤教授の3人が訪れ、交流協定のための調印式が行われました。

昨年、同病院口腔外科と本学口腔外科が講座間提携したことについて行われたものであり、今後、歯学部の学生および全講座との交流が行われることが確認されました。



左からBecher院長、Hell教授、永易教授、安彦教授、齊藤教授

札幌開成中等教育学校特別講義 「プレ先端科学特論」実施

1月6日と7日の2日間にわたり、札幌開成中等教育学校4年生54名を対象に、特別講義「プレ先端科学特論」を実施しました。

テーマは「自分の遺伝子を解析してみよう」。初日は本学個体差健康科学研究所 太田亨教授と岩手医科大学医学部臨床遺伝学科 徳富智明准教授による、遺伝子の基礎についての講義、自分の細胞からDNAを抽出し耳垢型を解析する実験を実施。

2日目は、公立大学法人横浜市立大学大学院 医学研究科遺伝学分野 松本直通教授による特別講演「次世代シーケンスと遺伝性疾患」終了後、2つの班に分かれ、徳富智明准教授による講義「家系図作成プログラムを使って家系図を作成しよう」と、初日の実験結果の確認・玉ねぎのDNAを抽出する実験をそれぞれ交互に行いました。

遺伝子解析実験や最先端の講義など大学ならではの学問・研究の様子を知る機会を持ち、またその内容について理解と興味を深める有意義な時間を過ごしたようでした。



EDITOR'S NOTE

弥生3月、やわらかな冬の日差しに暖かさが増し新芽が芽吹く季節になりました。

卒業生のみなさん、おめでとうございます。

今年の冬は雪が少ない、暖冬だったとのことですが、十数年ぶりに北海道に戻った身としては、道路の凍結や視界ゼロ状態は、これが北海道の冬!という実感をこえて恐怖でした。恐怖の通勤中、雪の少ない地域では気づけなかった自分の運転の癖が見えてきました。坂道の多い地域にいたのでスピードコントロールは慣れているつもりでしたが、凍結路でいくらかゆっくり踏んでもタイヤが止まってしまうと横方向にぶれるということがわからなかったようです。毎日思案し、冬も終わりが見えてきた今日までできてやっとな、路面状況と周りの運転に合わせられるようになりました。

新生活がスタートし、新たな環境での活動が始まるとこれまで見えなかった自分が見えてくることも多いかと思えます。新たな環境で生かせること、習熟が必要であること、積極的に新たな学習を積み重ねること、毎日たくさんのごとに触れるでしょうが、良き先輩方のサポートを受け、同僚とのチームワークを築きつつ進まれますように。今年はオリンピックイヤー!活気あふれる雰囲気の中のスタート健闘を祈ります。(R-T記)

ADVANCE

北海道医療大学広報誌 No.163

STAFF ● 遠藤 泰 尚也 長澤 敏行 伊藤 修一
遠藤 紀美恵 志渡 晃一 金澤 潤一郎 武田 涼子
澤村 大輔 白鳥 亜矢子 千葉 利代 杉谷 晶彦
宮川 雄一 國見 明美 塚田 将人

発行日 ● 2016年3月

編集・発行 ● 北海道医療大学広報・教育事業部 入試広報課
〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757
☎(0133)22-2113
http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/

広報誌についてのご意見・ご要望・情報等をお待ちしております。
E-mail:nyushi@hoku-iryo-u.ac.jp



■北海道医療大学の教育理念
生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって地域社会ならびに国際社会に貢献することを本学の教育理念とする。